

# 通常学級における聴覚障害の理解・啓発指導について

田嶋 恵美子・佐藤 正幸

(東京都世田谷区立九品仏小学校)(国立特殊教育総合研究所)

## I はじめに

聴覚に障害のある児童が、生き生きと通常学級で生活するための支援の一つとして、聴覚障害についての理解・啓発指導は不可欠なことです。また、健聴児に対してだけでなく、聴覚に障害のある児童本人に対しても必要なことです。

私(田嶋)は前任校世田谷区立駒沢小学校の難聴通級指導学級の担当者の一人として、子どもたちと日々関わっている通常学級担任と協働して「誰にでもできる聴覚障害の理解・啓発指導」をめざして実践を積み重ねてきました。

設置校の通常学級担任との低学年の指導案の共同研究からスタートし、その指導案に沿って、音が日常生活に欠かせないものであることをわかりやすく提示するためのVTRや寸劇の台本なども協働して作成しました。中学年・高学年の指導案については、共同研究の時間がとれませんでした。授業での協働という形で、連携を進めることができました。設置校や、難聴通級指導学級に通級している児童が在籍している学級での実践が多かったのですが、通級児童のいない学校からも指導の要請に応えたり、理解・啓発の指導を通したりして、通常学級担任との連携の機会が広がったことを実感しています。

一事例として、指導案の報告をいたします。

## II 学習指導案

### 1. 全体計画

	低学年	中学年	高学年
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚に障害のある人の生活や言語獲得の仕方について理解する。</li> <li>相手の気持ちを思いやりと共に、自分でできることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚に障害のある人の生活の不便さを理解する。</li> <li>相手の気持ちを思いやり、相手の立場に立って自分でできることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚に障害のある人の生活の不便さを理解する。</li> <li>相手の気持ちを思いやり、相手の立場に立って自分でできることを考える。</li> <li>障害のある人と共に育ち合う喜びを感じる。</li> </ul>
一次	<ul style="list-style-type: none"> <li>音が自分たちの生活に欠かせないものであることに気づく。</li> <li>聴覚に障害のある人の存在を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞こえないことがどんなことか知る。</li> <li>学校生活や日常生活において聴覚に障害のある人の不便さ、行き違い等を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞こえないことがどんなことか知る。</li> <li>学校生活や日常生活において聴覚に障害のある人の不便さ、行き違い等を知る。</li> </ul>

二次	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害の人の生活や言語獲得の仕方を知る。</li> <li>難聴児(副読本の主人公)に手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害の人との関わり方について知る。</li> <li>相手の立場に立って、何をどのようにすればいいかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害の人との関わり方について知る。</li> <li>相手の立場に立って、何をどのようにすればいいかを考える。</li> <li>さまざまな障害に対するバリアフリーについて気づきみんなが暮らしやすい社会を作ろうとする。</li> </ul>
三次	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害の人とのコミュニケーションの方法を知る。</li> <li>自分たちができることを考える。</li> </ul>		

### 2. 低学年指導案

#### (1) ねらい

- 相手の気持ちを思いやりと共に、自分でできることを考える。
- 聴覚に障害のある子どもの生活や、言語獲得の仕方について理解する。

#### (2) 展開(第1次)

- 音は自分たちの生活に欠かせないものであることに気づく。
- 聴覚に障害のある人たちがいることに気づく。

	学習活動	指導上の留意点	その他
T1	1. 音当てゲームをする。生活に関わりの深い音を聞いて音当てをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>テープで5つの音を聞かせ、音に対する関心を高める。</li> <li>鶏 救急車 うかい 料理電話</li> </ul>	カセットテープ、カード
T1	2. ビデオテープを見る。音が聞こえないと不都合なことが起きることに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションが、雑音によって消された映像を見せ、音が聞こえなかったら、どんなことが起こるかを考えさせる。</li> </ul>	ビデオ
	音って大切なんだ		
T2	音が聞こえにくい人がいることを知る。		
T2	3. 補聴器を試聴する。補聴器をつけると音が大きくなることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小グループに1台ずつ補聴器を配布し、話し声を主に聞かせる。</li> <li>補聴器の扱い方を知らせる。</li> </ul>	補聴器

	4. シミュレーションの音を聞き、補聴器をつけただけでは、正しい音が聞き取れないことを知る。	・話し声、生活音、音楽、機械音等を歪ませたものを聞かせて難聴者の疑似体験をさせる。	カセットテープ
T 1	5. 一口感想を書く。	・わかったこと、思ったことをプリントに記入させる。	プリント

### (3) 展開 (第2次)

- ・聴覚に障害のある子どもの生活や言語獲得の仕方について知る。
- ・聴覚に障害のある子どもの気持ちを考える。

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	そ の 他
T 1	1. 友だちの一口感想を読み、友だちの考えを知る。	・一口感想(前次)のいくつかを紹介する。 ・補聴器をつけただけでは、正しく聞けないことを確認する。	カード テープ
T 1 T 2	2. 「あした青空」の読み聞かせを聞く。  けんた君の気持ちを考える。	・P.18までを、読み聞かせする。 場面ごとに補足説明をする。  生活上の支障 言語獲得の過程 難聴児の気持ち 難聴学級の役割等	副読本 ビデオ ロッピー
		けんたくん、がんばれ!	
T 2 T 1	3. 感想、疑問に思ったことを小グループごとに話し合う	・グループごとに1名の担当者がつき、質問に答える。	
T 2	4. けんたくんに手紙を書く。	・難聴児に対して自分ができることなどにも考えを広げさせる。	プリント

### (4) 展開 (第3次)

- ・聴覚に障害のある子どもとの関わり方を考える。
- ・聴覚に障害のある人たちとのコミュニケーションの方法を知る。

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	そ の 他
T 1	1. 友だちのけんた君への手紙を読み、友だちの考えを知る。	・けんた君への手紙(前次)のいくつかを紹介する。 ・けんた君の気持ちを考えた感想を拾い出す。	カード
		けんたくんと友だちになろう!	
T 1 T 2 T 1	2. 寸劇を見て、どうしてけんたくんがこまるか考える。 自分にできることを考える。 本当に友だちになるために何が必要か考える。	・難聴児が困るような場面設定を寸劇で見せ「こんな時どうする」と考えさせる。  〈プレイ1〉じゃんけん  〈プレイ2〉おかわり	

	プレイ2のプリントの吹き出しに自分の考えを書き込む。  自分の考えをもとに寸劇をする	問題が起こった時を想定し、自分ならどうするか考えさせ、プリントに書き込ませる。	プリント
T 2	3. きこえの不自由な人とのコミュニケーションの方法を知る  口話、指文字、手話等を実際に行う。 手話で歌を歌う。	・口話、指文字、手話、筆談を紹介する。 寸劇を交えて紹介。  「小さな世界」を紹介する。	カセットテープ

## 4. 学習指導案 - 中学年 -

### (1) ねらい

- ・聴覚に障害のある人の生活の不便さを知る。
- ・相手の気持ちを思いやり、相手の立場に立って自分のできることを考える。

### (2) 展開 (第1次)

- ・聞こえないことがどんなことなのかを知り、学校生活や日常生活において聴覚に障害のある人の不便さや行き違いが生じることを知る。

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
8	月曜朝会時の文字や絵の提示の意味することを考える。	音声で情報をとらえられない人の存在についての配慮に気付かせる。 〈月曜朝会のビデオ〉 音声のみ-映像のみ-両方 聴覚に障害のない人にもわかりやすいことに気づかせる。
12	寸劇「ねちがい」を見て、聞こえないことについて思ったことを話し合う。	聞こえないために状況の判断ができず、善意でやったことが正反対の結果になってしまう寸劇を通して、聞こえないことについて考えさせる。 ・後ろから呼んでも聞こえない ・グループで話していることが聞こえていないことが多い e t c
20	「トオル君のパパ」と訪問者とのやりとりの漫画のOHPを見て気づいたことを発表する。	日常生活の中で、聞こえないことによる行き違いが生じやすいことを知る。 〈漫画のOHPシート2種〉 ・パパの気持ちを考えさせる。 ・町会長さんの気持ちを考えさせる。
5	一口感想を書く	わかったことや思ったことをプリントに記入させる。

### (3) 展開 (第2次)

- ・聴覚に障害のある人の情報を得るための手段について知り、相手の立場に立って自分のできることを考えさせる。

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
5	友だちの一口感想を読み、友だちの考えを知る。	前次の一口感想のいくつかを紹介する。
15	聴覚に障害のある人の情報を得るための手段について話し合う。  補聴器の試聴をする ・音が増幅されることを知る  シミュレーションテープを聞き補聴器をつけただけでは正しい音は聞き取れないことを知る。	経験の中で知っていることについて話し合わせる 補聴器 手話 指文字 e t c  数人ピックアップして試聴させ、感想を述べさせる。(希望する児童については、授業後に試聴させる。)  話し声、生活音、音楽、機械音等を歪ませたものを聞かせ、難聴者の疑似体験をさせる。
5	聴覚に障害のある人とのコミュニケーションの方法を知る。 口話、指文字、手話、要約筆記についての概略を知る。	口話、指文字、手話、要約筆記のデモンストレーションを見せる。
10	指文字や手話の練習をする。	指文字のプリントを見ながら50音の練習を一斉にさせ、自分の名前を個々に練習させる。 「私の名前は～です。」の手話表現の練習をさせる。 ・指文字 ・耳データファイルのプリント
5	相手の立場に立って自分にできることを考え話し合う。	
5	一口感想を書く	わかったことや思ったことをプリントに記入させる。

## 5. 学習指導案 - 高学年 -

### (1) ねらい

- ・聴覚に障害のある人の生活の不便さを理解させる。
- ・相手の気持ちを思いやり、相手の立場に立って、自分のできることを考えさせる。
- ・障害のある人とともに育ち合う喜びを感じさせる。

### (2) 展開 (第1次)

- ・聞こえないことがどんなことかを知る。
- ・学校生活や日常生活において聴覚に障害のあることによる不便さ・行き違い等を知る。

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導入	・聞こえにくい事がどんな気持ちなのか、体験する。	・簡単な心理ゲームを行う。答えを聞くときに、児童の半分は聞き難い状況を作り、聞こえにくい体験をさせる。(交代で行う)

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
展開	・「君の手がささやいている」のビデオを見る。  ・補聴器について知る。  ・質問があったら、質問する。  ・「かくれんぼ」の寸劇をして、Mさんと友達との行き違いについて考える。	・電車に乗っている時に、事故で電車が止まってしまうが、聴覚障害者に車内放送が聞こえない状況をつかませ、耳が聞こえないことによる不便さを気づかせる。  ・シミュレーションテープを聞き、補聴器を通した聞こえ方を知らせる。 ・ビデオを見る前に補聴器を通した音を聞いているだけであり、聴覚障害者の聞こえの程度によってこの通りには聞こえず、もっと聞きにくいことを伝える。 ・「もういいかい」「まあだだよ」とかくれんぼをしていて、まだだということに見つけてしまう。みんなにずるいと言われたことをMさんはいじめられたと勘違いしていることに気づかせる。(学級の子どもに実際に入ってもらおう。)  ・思ったことや解決策を発表したり、ロールプレイしたりさせる。
まとめ	・感想を書く	

### (3) 展開 (第2次)

- ・聴覚障害の人との関わり方について知る。
- ・相手の立場に立って、何をどのようにすればいいのか考える。

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導入	・前時の友達感想を聞いたたり、準備した資料について説明を聞く。	・感想をもとに、児童の実態にあった資料を準備する。
展開	・本時のめあてを知る 「自分にはどんなことができるか」  ・難聴児本人に良かった経験、困った経験を話してもらったビデオをみる。  ・感じたことをそのまま発表し合う。  ・今自分に何ができるかを、具体的に書き出す。  ・聴覚障害者のためのバリアフリーについて知っていることがあったら発表する。	・自分にはどんなことができるかを具体的に考えさせながら展開する。  ・本音が出せるように、価値を押しつけるような受け止め方はしない。  ・一人一人の考えを明確にさせる。  ・字幕、薬を待つ時の番号、「電車が来ます」の表示、振動する目覚まし時計、ファクシミリ、お知らせランプ、手話等に気づかせる。

<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•他の障害のバリアフリーについて知っていることがあったら発表する。</li> <li>•感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•障害を偏見とせず個性としてとらえられる心のバリアフリーのきっかけを作る。</li> <li>視覚障害者のための点字・駅のホームの誘導ブロック・車椅子用のスロープ等</li> <li>それらのことが実は私達自身のためになっていることに気づかせる。</li> </ul>
------------	--	---

### Ⅲ 難聴通級指導学級での理解・啓発

聴覚に障害のある児童本人に対しての、聴覚障害についての理解・啓発指導を、高学年の通級児童を対象として行いました。駒沢小学校難聴通級指導学級では、週1回の小集団学習を行っておりますので、その時間に行いました。

学習の内容としては①耳のしくみ・耳の健康管理②オーディオメーターの使い方・平均聴力の出し方・オーディオグラムの見方・聞こえの特質を知る③補聴器について・補聴器の扱い方④いろいろな音を聞く⑤コミュニケーションの方法（音声・読話・手話・指文字）⑥コミュニケーションの不便さや工夫（家庭・学校）としました。

4年生から6年生までの5人の児童が、一緒にきこえについての学習をあらためてすることで、自らの障害を見つめ直すきっかけにもなりました。また、お互いによりよいコミュニケーションを図るためにどうしたらよいか考えあったり、好きな音、きれいな音、不便なことについて話し合う中で、共感したりアドバイスしあったりもできました。

成長段階を考えた内容や配慮のもとで、保護者との連携も大切にしながらの実践が必要かと思えます。

### Ⅳ 聴覚障害の理解・啓発指導にあたって 検討すべき項目

これまで、通常学級にて聴覚障害理解・啓発指導を行ってきた中で、学習指導案構築で以下の事柄が考慮・検討されるべきであると考えました。これには、まず指導案を作成する以前の環境作りとしてのバックグラウンド及び指導案作成上の検討項目の2点があります。

#### 1. バックグラウンド

##### ○ 聴覚障害についての基礎知識

例えば、障害の原因、伝音難聴か感音難聴か。

##### ○ 教員自身が聴覚障害を理解しているか。

例えば、聴覚障害のある子どものコミュニケーション（きこえ、コミュニケーション方法などを含む）、補聴器な

ど援助機器。

さらには、教員自身がどのような支援をすべきかを自覚しているか。

（先入感で終わらないように心がける）

##### ○ 知識を通しての「聴覚障害理解」と体験を通しての「聴覚障害理解」（教師自身において）

知識 ————— 一般論として

体験 ————— 特設の授業というよりも聴覚障害のある子どもとの日々の関わりあい

#### 2. 検討項目

##### ○ 一般論としての話

聴覚障害者について

##### • impairment の理解

きこえなくなること

きこえにくくなること

##### a. 音が小さくきこえること

##### b. 音がきき分けられなくなること

##### c. 小さな音がきこえなくなること

##### • disability の理解

発声・発語が不明瞭なため笑われること、馬鹿にされることがある。

（自分自身の発声・発語がフィードバックしにくいいため、発声・発語にあたってのコントロールがうまくいかないことをわかりやすく伝える）

##### • handicap の理解

コミュニケーション障害

情報障害

生活上などでの不便さ 聴覚障害のある人の社会的立場

##### • 心のバリア

偏見・差別、からかい いじめ、障害の不理解からくる誤解

その他

##### ○ 個に対応した話

##### • クラスにいる聴覚障害のある子どもについて

聴覚障害をどう捉えるか、上記の一般論が基本となった固定的観念で捉えるだけでなく、個人的な関わりでその子の聴覚障害を捉えていく。

##### a. 教師が一般論として提示する聴覚障害とクラスにいる級友としての聴覚障害のある子どもとのギャップ（いろいろな子ども、人がいる）

##### b. 「障害があがながらもがんばっている」（この言葉の意味するもの：できなくて当たり前？） 誉め言葉のつもりが……

##### c. 教室内の聴覚障害のある子どもや保護者との事前の共通理解

## ○ 授業の進め方

- 特別に授業を設定するか。通常授業の一コマとして行うか
- 説明 クラス担任教師から  
聾学校・通級指導教室・難聴学級等の教師から  
聴覚障害のある子どもを持つ保護者から
- 体験  
コミュニケーションの体験 手話・読話  
ハンディキャップの体験  
補聴器を通した音声をきく、消音したテレビの視聴、  
補聴器を通した教室の音をきいてみる、教室内の音の  
大きさを騒音計でしらべてみる。
- 聴覚障害のある子どもの実体験をきく。
- 聾学校、通級指導教室、難聴学級とはどんなところ？。

特に、授業を行うクラスに聴覚障害のある児童が在籍していた場合、聴覚障害の一般的知識に終わらず、個に対応した話についても聴覚障害児本人と話し合いながら、指導案の構築を行っていくことが肝要となってきます。

## V おわりに

ある学級でのHRでのことです。当番活動をめぐっての行き違いを「聞こえないことを理由にしないでください」と言われて泣いてしまった5年生のAさん。担任の支援があり、その場で解決はしましたが、その後、理解・啓発の授業の中で、補聴器が有効に働く距離を伝えたり、Aさん自身が「私のきこえについて」という題の作文の中で聴力に変動があることや、話しかけるときのしてほしいことを読み上げました。その授業の感想の中に「Aさんが自分のきこえのことをはっきり伝えられたことはすごいことだ」と認め「聞こえているのに知らんぷりしてはいやだと思ったことがあったが、誤解をしていたので、これからは工夫をしていきたい」という内容のAさんの立場にたったものがかなりあったそうです。

理解されにくい障害の一つでもある聴覚障害ですが、数多くの学級での実践を通して、子どもたちに理解を深めていけたらと願っています。